



ニューズレター

島根大学・寧夏大学国際共同研究所日本側事務局 2011年10月 発行



我が研究所に期待されること

2011年10月9～11日、中川正春文部科学大臣、程永華駐日特命全権大使を迎え、「第2回日中大学フェア&フォーラム」（主催：科学技術振興機構中国総合研究センターなど）が東京で開催された。フェアのブースには、日本から54大学・機構、中国から61大学・機構、その他11の先端技術の出展があり大盛況だった。

フェアで行われたアピール大会では、司会者から「次は会場でもっとも目立っている島根大学のアピールです」と紹介された。確かに、島根大学の揃いのハッピー姿もブースのポスターも目立っていたが、それ以上に存在感を示したのは、①島根大学の学術交流の相手が東部でなく西部の大学であること、②学術交流24年という孤高の実績である。この点が、島根大学のブースを訪れた中川正春大臣の目にとまり、声をかけられもした。

これら二つの特徴は、今後の研究所発展の礎石である。この礎石の上に、どのような研究所の将来像を描くべきか。そのポイントは次の三つだと私は考えている。

第一に、研究所の研究枠組みとして「共同研究」と「個別研究」を区分し、研究所の共同意志として「共同研究」の課題を設定・遂行する。テーマとしては西部立地の地の利を生かし、かつ「地球的な大義」を持ったテーマが望ましく、例えば、荒漠（砂漠）化と世界食料危機、農業・農村、水資源問題、再生可能エネルギーなどが考えられる。

第二に、前記の研究テーマは西部に共通し、西部の諸大学が取り組んでいる共通テーマであるため、広く西部の大学が学術ネットワークを組み、共同して取り組むほうが効率的に成果を挙げ得る。これが「中国西部学術ネットワーク」の目的であったが、機能するまでに至っていない。研究所を“扇の要”とした西部学術ネットワークを広げ、テーマごとの共同研究、ワークショップやシンポジウム等を開催することは急務である。

第三に、日本の研究者による個別の中国西部研究は一定なされているが、組織立ってはいない。研究所が窓口となって、多くの大学の多くの研究者を「客員研究員」に迎え、西部研究の便宜を図り共同することも、研究所の発展方向として重要な課題である。

島根大学は、中国西部研究の日本のパイオニアの位置にある。この位置を生かして研究所を日中西部研究の開かれたプラットホームにする。これが、「日中大学フェア」からヒントを得た私の研究所の研究業務遂行のための将来ビジョンである。

2011年10月 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 顧問 保母武彦

第9号 目次

巻頭言「我が研究所に期待されること」	1	寄稿	5
トピックス	2	「経済発展のなかの寧夏～失われていく在来品種～」小林伸雄（島根大学生物資源科学部）	
・ 2011年度研究奨励助成の対象者決定		論文紹介	6
・ 保母顧問・伊藤所長が寧夏大学を訪問		・ 「寧夏農業の経済効果に関する調査・分析」馬宏岩（銀川市食品（薬品）公共安全検査検測中心）	
・ 寧夏大学で島根大学留学説明会を開催		お知らせ	10
・ 共同研究所年報 第3号、第4号を発刊		研究所訪問者／新着図書紹介	
ニュース	3		
・ 島根県民交流団が訪寧			
・ 北方民族大学で日本文化祭り開催			
寧夏回族自治区の紹介	4		
第三回 石嘴山市			

■ 2011 年度研究奨励助成の対象者決定

島根大学・寧夏大学国際共同研究所に係る研究者に対する研究奨励助成の 2011 年度(第 4 年度目)の対象者が決定しました。この助成事業は、島根大学と寧夏大学の学術交流 20 周年を記念し、島根大学によって創設されたものです。今年度は寧夏大学から 5 件の応募があり、その中から次の 4 件が助成対象に選ばれました。

<p>葉 林 (寧夏大学農学院・施設園芸・講師) 15 万円 「寧夏南部山区の日光温室栽培に適したスイカ台木選別試験に関する研究」</p>
<p>「美利堅」「金剛」「嫁得金」「抗病金钻」という四つのスイカ台木を導入し、地元でよく栽培されている「華鈴」というスイカ品種と接木試験を行い、優良品種の接木を選別する。接穂と台木の親和力、苗の活着率、立枯病に対する抵抗力、台木の根系分布状況、生産量及び品質等の主な性状に関する総合的な研究分析を行い、寧夏南部山区の日光温室栽培に適した優良な台木品種を選別し、今後のスイカ生産における普及・応用に理論的支持を提供し、農民の増産増収に確固たる根拠を提供する。</p>
<p>王 玲 (寧夏大学農学院・動物科学学科・副教授) 15 万円 「トマトの残渣物とトウモロコシの茎の混合貯蔵飼料の効果に関する研究」</p>
<p>トマトの残渣物とトウモロコシの茎を異なる比例で混ぜ合わせた貯蔵飼料をつくり、その飼料の品質を評価し、一番質の良い混合比例と貯蔵時間を確定する。</p>
<p>江 曉紅 (寧夏大学政法学院・研究助手) 15 万円 「寧夏南部山区における農村留守婦人の生存と持続可能な発展に関する研究」</p>
<p>寧夏南部山区は黄河中流の黄土丘陵地域に位置し、典型的な雨水に頼った農業地域である。劣悪な自然条件と脆弱な生態環境のせいで、経済及び農業発展が極めて立ち遅れており、一部の農民は今でも貧困から脱出していない。貧困による独特の現象として、留守婦人の人数が年々増えていることが挙げられる。このことは大きな社会問題となっており、農村の持続可能な発展を制限している。従って、南部山区における妻たちが「留守番」となる原因とその生活状況、婚姻関係と自立発展の難しさを深く調査・研究し、対策と解決方法を提案して、南部山区の農村を貧困から脱出させ、持続可能な発展を実現させることは、非常に重要な意義を持つ。</p>
<p>藏 志勇 (寧夏大学西部発展研究中心・博士) 15 万円 「農民工の「帰郷創業」による地域経済の振興に関する研究—中国・寧夏の事例を中心に—」</p>
<p>現時点の中国経済システムの一環として、農村部の発展は不可欠である。農村地域の経済発展に役立つ農民たちがその核心となり、中国における都市化と工業化への重心となっている。本研究では、中国西部地域の重要地域である寧夏回族自治区における農民工の「起業者」を研究対象にし、出稼ぎ地から獲得した技術や知識および現金を出身地に持ち帰った後の起業・経営が、地域経済の振興に与える役割・影響を明らかにする。</p>

奨励助成制度詳細はこちらをご覧ください。 <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/topix/11joseiboshu.html>

■ 保母顧問・伊藤所長が寧夏大学を訪問

5 月 15 日～17 日、保母顧問と伊藤所長が寧夏大学を訪れました。今回の訪問は、2010 年末に行われた寧夏大学の大規模な人事異動後の研究所の状態を確認し、今後の研究所の方向性について話し合うために行われました。3 日間という短い間でしたが、謝応忠寧夏大学副校長との会談、新しく研究所中国側所長となった王鋒教授との懇談等が行われ、謝副校長との会談では、今年度の早い段階で両校の学長・校長レベルの協議会を開催し、今後の研究所のあり方についてさらに話し合うことを決定しました。



■ 寧夏大学で島根大学留学説明会を開催

5月17日、共同研究所にて島根大学の留学説明会が開催されました。説明会は9:00～と10:30～の約1時間、2回構成で行われ、寧夏大学の教員、学生の総勢86名が参加し、伊藤勝久所長から島根大学の紹介やカリキュラムの概要等の説明、また日本での生活等について説明を行いました。参加した学生たちからは、入試方法や留学にかかる費用、専門分野等に関する質問が積極的にあがり、熱気あふれる説明会となりました。

島根大学は、今後も定期的に寧夏大学での留学説明会の開催をしていく予定です。



■ 共同研究所年報 第3号、第4号を発刊

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報の第3号（2008年-2009年合併版）と第4号（2010年度版）を発刊しました。内容の閲覧は研究所HP「概要く研究所のあゆみ」ページをご覧ください。PDFデータを掲載しております。

研究所HP 「概要く研究所のあゆみ」<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/ayumi.html>

■ ニュース

■ 島根県民交流団が訪寧



6月3日～7日、島根県民交流団が寧夏を訪れ、植林や寧夏大学の学生との交流等を行いました。これは、島根県内の民間団体である「日中友好しまね」が毎年行っているもので、今年で15回目を迎えました。この継続的な活動により、交流団による緑化は大きな成果を上げ、靈武市にある植林地には緑が広がっています。また、通訳として同行する寧夏大学日本語科の学生にとっても、日本語を使う実践的な活動の場となっています。

■ 北方民族大学で中日文化友好交流祭開催

6月4日・5日、北方民族大学で中日文化友好交流祭が開催されました。日本語スピーチコンテスト、アフレコ大会、華道のデモンストレーション等、様々な日本に関する催しが行われ、近隣の大学や専門学校で日本語を勉強している学生等、たくさんの人が参加しました。特に日本語スピーチコンテストでは、1年生から4年生までの日本語を専門とする学生、及び第2外国語で日本語を学習した学生35名が出場し、日ごろの学習の成果を競い合いました。





寧夏回族自治区の紹介

第三回 石嘴山市

石嘴山市は自治区の北部に位置し、大武口区（市中心区）及び一県一区（平羅県、恵農区）を管轄しています。

歴史:

石器時代	古代人類が生活
秦代	郡が設置される。
西漢代	廉県が設置される。
明代	平虜城（現・平羅県）が設置される。
清代	甘肅省寧夏府に属し、平虜が平羅に改められる。
1929年	寧夏が省となり、平羅県の北部地域が磴口県となる。
1941年	市の西部に恵農県、東部に陶楽県が設置される。
1960年	国務院によって、石嘴山市の設立が認められる。

石嘴山市発表データ(2010年)

面積	5,310 km ²
総人口	72.55 万人
回族人口	14.15 万人 (総人口の 19.44%)
全市 GDP	298 億元
都市住民一人当たりの年間可処分所得	15,466 元
農民一人当たりの年間純収入	6,060 元
全社会固定資産投資	270 億元
地方財政一般予算収入	32.66 億元

地理的状況:

石嘴山市は銀川平原に位置し、銀川市の北側にある。市の西側に賀蘭山があり、東側に黄河が流れている。銀川河東空港から 80km、包蘭鉄道が通り、国道及び北京-チベット間高速道路が全市を貫いており、交通至便である。

自然環境の特徴として、湿地・湖沼が多い。国家 5A 観光地である沙湖もその一つである。湿地面積は 43 平方キロメートル、水域面積は 23 平方キロメートルである。市区緑地率は 36%、森林被覆率は 12%である。

主な農産物:

トマト、クコ、牛羊肉、水産物

工業:

石嘴山市は国家「一五」期間に建設が始まった中国十大工業基地の一つで、自治区で一番初めに開発された工業都市である。市域内の鉱物資源が豊富で、石炭、硅岩、粘土、白雲岩等 10 種余りが発見されている。資源のほかにも、機械製造、新材料、エネルギー化学工業等の工場が数多くあり、特に太陽エネルギー産業が活発である。

また、石嘴山市は中国で 2 番目の循環経済試験都市に制定されている。また、全国で初めての資源枯渇都市経済転換モデル地区でもある。

主な資源埋蔵量

石炭	24 億トン
太西石炭	5.6 億トン
硅岩	42 億トン

■ 経済発展のなかの寧夏～失われていく在来品種～ 小林伸雄（島根大学生物資源科学部）

最近の首都銀川の都市発達には目を見張るものがあった。昨年9月に二年振りに銀川を訪問したところ、これまでは片側5車線もあるただ広いだけだった郊外道路の両側に、少なくとも県内では見ることのないようなビルディング群が林立していた。中国の急速な経済発展の波が沿海部から内陸の黄土高原まで押し寄せているのであろう。新しく発達した地域にある現代的な図書館や博物館を見学し、一瞬どこの国にいるのかわからなくなった。



地方都市の農産物市場

その後、以前よりさらに整備の進んだ高速道路に乗り、以前と同じ田園風景が見えてくると、寧夏に来ているという認識が戻って、少し気持ちが落ち着くのであるが、農業の内情も変革している。銀川市近郊では野菜・花卉類の集約的な経済栽培が発達しており、ここで栽培される品種は国外から導入された経済品種が大半を占めている。各地の市場に並ぶ形や色がきれいに揃った野菜

を見ると、大手種子会社の野菜・花卉のF1種子が市場を独占する世界的な影響が、銀川をはじめ地方都市にも及んでいることが計り知れる。2005年度調査では、南部山区の小規模な自由市場において形質が不揃いな野菜や小さな果実のような在来品種の流通が観察された。その後の調査では均質で生産性と換金性が高い経済品種によって在来品種が取って代わる様子が垣間見られた。かつては我が国でもそうであったように、農家が菜園で栽培する野菜類は自家採種により毎年維持されていた。副業の運送業によって経済状況が向上し、手間のかかる自家



地方市場の種苗店で販売されるトマト種子

採種は止めて、商業種子を購入するように変化したという現地の農家の事例もあった。南部山区のいまだに土を固めただけのような家が並ぶ農村地域にも経済発展の影響が及んでいる。これらの地域で地方在来品種の遺伝資源調査と保護を行わなければ、長年維持されてきた貴重な遺伝資源が失われていくであろう。我が国でも、戦後の経済発達の中では各地の在来品種が誰にも気づかれずに絶滅していき、最近ようやくその重要性や価値が認識されるようになった。現地の農学者らも今は経済発展重視の農業研究が中心である。



南部山区の農家

その昔、独自の文字を持つ西夏王国が栄えていた寧夏も、現代中国の経済発展の大きな潮流の中にある。今後どのように変革していくかわからない現在の寧夏を是非とも一度訪問していただきたいと思う。映像や文面では伝わらない空気を感じていただきたい。シルクロードの重要な経由地でもあったこの地に必ず心惹かれる研究テーマが見つかるはずである。



■ 寧夏農業の経済効果に関する調査・分析 馬宏岩(銀川市食品(薬品)公共安全検査検測中心)

《宁夏农林科技》 2010年第3期より

近年来、寧夏は農業産業の構造調整の進展を早め、現代農業と特色農業の発展に力を入れている。寧夏の農民一人当たりの純収入及び優勢特色農業の経済効果と比較効果を把握するため、筆者は国民党革命(以下、民革)寧夏回族自治区委員会の「寧夏農業経済効果調査」の研究グループに参加した。この調査研究は2008年8月から10月にかけて行われ、自治区及び市の連動調査という方法によって、民革銀川市、石嘴山市、吳忠市、中衛市委員会がそれぞれの管轄区内の区、県、市で調査を行い、自治区委員会は固原地域での調査手配と全体のスケジュールを整えた。調査は、現地調査、座談会、農家調査、アンケート調査及びサンプリングの方法によって、農民の年収入と収入の出所及び構造、農業収入、畜産収入、農産品加工収入、農民生産経費用、その他の支出、主な優勢特色農業産業の比較利益効果及び一人当たりの利益効果、社会貢献率の分析と順番、農業産業化経営(專業協会を含む)項目、当面の農民増収の主な困難と問題、農村経済発展に対する農民の考えについて調査研究を行った。

1 寧夏農業の基本状況

寧夏の農業人口は412万人で、総人口の70%を占める。寧夏の地域特徴は、以前は川区と山区という二分法であったが、土地事情を考慮し、北部黄河灌漑区、中部早魃帯、南部黄土丘陵區という三分法に調整された。2007年、全自治区で農業生産総額165億元(前年比+6.8%)を実現し、農業増加値生産額は97.9億元(前年比+6.5%)となった。食糧の生産総額は300万トンに達し、全国で一人当たりの食糧占有供給量が500kgを超えた五つの省(区)の一つになった。近年来、寧夏は農業産業構造の調整に力をいれ、現代農業と特色農業を強力に発展させており、農業経済に以下のような特徴が現れた。

1.1 優勢特色産業を中心とした地域化産業分布の基本がほぼ形成された

中国共产党寧夏委員会と政府は、食糧生産を安定させるという基礎の上で、以下の十大特色優勢産業の発展計画を制定した。①中寧県を中心とした賀蘭山と清水河流域に広がるココ産業帯、②黄河灌漑区における肉羊牛交雑改良区、塩池県-靈武市-同心県-海原県の灘羊産業帯、及び六盤山麓肉牛生産区からなる清真(回教徒用)羊・牛肉生産帯、③吳忠市及び銀川市を中心とした乳業帯、④南部山区と中部早魃帯を中心とした馬鈴薯産業帯、⑤環香山地区「セレン西瓜」産業帯、⑥寧夏全域における施設農業の推進、⑦黄河灌漑区を中心とした優良品質の食糧生産帯(水稻、小麦、トウモロコシが主

体)、⑧主に賀蘭山東麓に集中する葡萄産業帯、⑨靈武-中寧-紅寺堡-同心-海原の紅棗産業帯、⑩黄河灌漑区の食糧及び牧草の兼用産地、中部早魃帯の乾燥帯草地、南部山区退耕植草からなる優良品質の牧草産業帯。以上のような特色優勢産業の地域化分布は、ココ生産の中寧県、馬鈴薯生産の西吉県、灘羊生産地の塩池県、全国最大のセレン西瓜生産基地と集散地となった中衛市、そして乳牛養殖規模と養殖レベルを誇る吳忠市利通区等、産業県としての発展は、西北地域の先頭を行くレベルにある。

1.2 農産品加工システムが徐々に形成された

2007年末までに、全自治区の農産品加工企業は8943社に達し、そのうち一定以上の規模の企業が307社、収入が1億元を超える企業は25社、主な農産品転化率は年45%に達し、一定規模以上の農産品加工企業の生産総額は100億元に上った。全自治区のココ加工企業は138社、そのうち、一定規模以上の企業は22社で、ココ酒、ココ油、ココ果汁、ココ茶等多種にわたる一連の製品が生産されており、生産量に対する加工率(干果を除く)は年20%を上回った。馬鈴薯澱粉加工企業は約4000社近くあり、一定規模以上の企業は約100社で、年間150万トンの馬鈴薯を加工することができ、中国における重要な馬鈴薯澱粉生産基地となっている。乳製品加工企業は28社で、2007年には13万トンの液体ミルク及び各種の粉ミルクを5万トン生産し、販売収入は12.2億元に達した。清真牛・羊肉の加工企業は7社ある。ワイン生産企業は16社で、年生産量は2万トン、全国のワイン生産量の5%を占める。食糧加工企業は、年間で米18万トン、中・高品質の小麦粉20万トン、トウモロコシ澱粉60万トンの加工能力を持っている。草製品加工企業は10余社あり、粗飼料関連(梱包乾草、細切乾草、ヘイキューブ、ヘイウエファース、ペレット)の飼料を84万トン加工できる。

1.3 農産品の地域外流通局面が徐々に現れている

寧夏は市場開拓戦略を実施し、流通企業、仲介組織、大口顧客という流通システムの構築に力をいれ、特色優良品質の農産品、特に鮮度の高い農産品の効果的な流通を保証することによって、農業経済効果と利益を高めた。2007年、寧夏ココの干果としての流通量は国内市場シェアの46%(金額ベース)を占め、付加価値の高い製品が東南アジア、欧米など30カ国に輸出され、年収入約2000万ドルを獲得した。ココの輸出量は全国一位である。「セレン西瓜」は北京、広州、深圳等の主要都市で安定した市場が形成されており、都市部への出荷量は年間62万トンで、総生産量の79%を占める。水産品

産業に関しても、寧夏は西北地域における重要な集散地となっている。また、靈武の長棗は上海や広州地方に出荷され、中寧の丸棗は南部の成都等の地方に出荷され、売り上げを大幅に高めている。

1.4 農民経済収入が徐々に高まる

2007年、全自治区の農民一人当たりの純収入は3180.8円で、前年より15.2%増え、増加幅が全国平均より高かった。農民の増収ルートは、以下である。①特色優勢産業からの収入。全自治区の農業産業構造調整と特色優勢産業発展に力を入れ、主な産地の農民の純収入の半分を特色優勢産業からの収入が占めるようになった。②農業産業化からの収入。農業の産業化は農村の第二・第三次産業を振興させ、従事人口が63.8万人にも達し、20万人の農民が農産加工企業に吸収された。③出稼ぎによる労務収入。全自治区農村の労働力移転就職は約80万人となり、農村労働力の30%を占める。労務総収入は36.4億円で、出稼ぎによる一人当たりの現金収入は5000円で、農民一人当たりの収入の三分の一、南部山区では半分を占めることになった。また、技能トレーニングにより、農村労働力の質と能力が顕著に高められている。

2 調査の結果と分析

2.1 農民の収入状況

2.1.1 食糧穀物の収支状況

調査対象は黄河灌漑区の農家(表1)であり、調査結果をまとめたものが表1である。調査した作付農家は56戸、1戸平均栽培面積は0.37haで、1.2人の労働力を用いている。内訳は、小麦生産33戸:平均栽培面積0.15ha、水稻生産28戸:平均栽培面積0.17ha、トウモロコシ生産32戸:平均栽培面積0.2haである。表1により、食糧穀物栽培の経済利益が相対的に低いことが分かる。すなわち、農業従事戸が1.5人の労働力で0.6haの耕地を耕した総収入は4576元(598+1382+996+1600=4576)で、政府の補助金500元を加え

ても、5076元にしかならない。この収入は、一家族の生活を維持するのがやっとという低いレベルである。

2.1.2 経済作物の収支状況

調査対象地域は黄河灌漑区と中部旱魃帯の農家(表2)であり、その結果をまとめたものが表2である。調査農家は35戸、1戸当たりの作付面積は0.35haで、平均して1.5人の労働力を用いている。内訳は、ココ生産15戸:平均栽培面積0.22ha、西瓜生産8戸:平均栽培面積0.1ha、向日葵生産5戸:平均栽培面積0.07haである。表2から分かるように、ココの収入は比較的高く、0.67ha(≒10ムー)のココ栽培で純収入が3万円近くになる。これは優勢特色産業政策の効果でもあり、ココ産業の流通システムが既に形成されているためでもある。西瓜、特に「セレン西瓜」の生産は667m²(≒1ムー)当たりの純収入が1000円で、農民のもう一つの脱貧致富の道である。

2.1.3 養殖業の収入状況

牛肥育戸の調査対象は、原州区農民合作社(表3)である。表3からわかるように、牛一頭の肥育によって1090元程度の収入があり、比較的経済効果が高い。しかし、繁殖用母牛の飼育の年間コストは1100+1260+60+200=2620円で、それに加えて9ヶ月間の子牛の飼育費1965元を加えると、合計4585元となり、収入3800元を差し引いても785元の赤字である。食用豚は、中衛市と青銅峽市(県レベル)の養殖戸を調査して得たデータで、1頭当たりの純益は423円で、経済効果が高い。羊養殖調査は平羅県を対象に行ったが、2ヶ月の肥育期で1頭当たりの純益が85元、経済効果はかなり高い。しかし、雌羊の飼育コストは一日当たり1.5元、一年で550元になる。繁殖率を150%で計算すれば、280元(子羊1頭当たりの販売価格)×150%=420元となり、実際には130元の赤字が出る。2007年の養殖業経済効果は、肥育牛>豚>肥育羊>乳牛>鶏の順になった。

表1 調査戸の食糧作物(穀物)による収支状況(2008年)

品種	平均栽培面積(hm ²)	単位面積生産量(kg/667m ²)	生産量(kg)	価格(元/kg)	生産額(元)	コスト(元)					純収入(元)	667m ² 当たり純収入(元)	
						種子	化学肥料・農薬	水・電気	機械耕作	その他			コスト計
小麦	0.15	326	749	1.72	1,288	115	414	69	138	69	690	589	260
水稻	0.17	478	1,243	1.80	2,237	78	520	130	130	75	855	1,382	531
トウモロコシ(間作)	0.14	482	1,012	1.40	1,416	42	210	42	84	42	420	996	474
トウモロコシ	0.17	650	1,625	1.40	2,275	50	400	50	125	50	675	1,600	640

表2 調査戸の経済作物による収支状況(2008年)

品種	平均栽培面積(hm ²)	単位面積生産量(kg/667m ²)	生産量(kg)	価格(元/kg)	生産額(元)	コスト(元)					純収入(元)	667m ² 当たり純収入(元)	
						種子	化学肥料・農薬	水・電気	機械耕作	その他			コスト計
ココ	0.22	250	825	18	14,850		1,188	99	198	3960*	5,445	9,405	2,850
スイカ	0.10	3,000	4,500	0.5	2,250	180	325	45	105	230**	885	1,365	910
ヒマワリ	0.07	200	200	3.5	700	50	85	39	65	70	300	400	474

*3960元には果実の摘み取り及び乾燥費を含む。**230元にはビニールシート代を含む。

表3 養殖業収支状況(2008年)

品種	飼育頭数(頭、羽)	飼育期(月)	価格(元/頭)	生産額(元)	コスト(元)					純収入(元)	頭当たり純収入(元)	次回運用資金	
					仔畜費	飼育費	精飼料費	疾病予防費	その他				コスト計
肥育牛	20	6	3,800	76,000	28,000	11,000	12,600	600	2,000	54,200	21,800	1,090	27,100
肥育羊	600	3	500	300,000	180,000	21,600	43,200	3,000	1,200	249,000	51,000	85	81,000
豚	200	5	1,600	320,000	120,000		112,000	2,400	1,000	235,400	84,600	423	117,700
鶏	8,000	2	25	170,000	28,000		104,000	12,000	5,000	149,000	21,000	3	37,000
乳牛	10	12	24,000	240,000		21,900	43,800	2,000	5,000	72,700	35,000	3,500	72,700

2.2 優勢特色産業の効果と利益

2.2.1 クコ産業

中寧県を中心とするクコ産業帯では、栽培面積が3.3万 hm^2 、乾燥クコの生産量が年間7万トンに達する。調査によると、1トン当たりの販売価格は1.8万円で、総生産額は12.6億元に達したという。1ムー当たりの投入資金は1650元であるのに対し、収入は4500元で、投入産出比は1:2.73となり、1ムー当たりの純収入は2850元である。

2.2.2 清真牛・羊肉産業

肉用牛の飼育が150万頭、羊1055万頭で、食用肉の総生産量は17.4万トンであるので、1kg当たり4.2元の純利潤で計算すれば、牛・羊肉の総利潤は7.31億元になる。羊の肥育周期は2ヶ月で、1頭当たりの純収入は85元、牛の肥育周期は6ヶ月で、1頭当たりの純収入は1090元である。

2.2.3 牛乳産業

全自治区の乳牛飼育数は32万頭で、生乳の総生産量は95万トン近くに上る。生乳1 l の純利潤を0.6元で計算すれば、養殖戸の乳牛1頭当たりの年間純収入は3500元になる。

2.2.4 馬鈴薯産業

南部山区と中部乾燥地帯を中心に、栽培面積は22.3万 hm^2 で、年間の生産量は350万トン、寧夏において栽培面積が最も大きい農作物である。1kg当たり0.70元で計算すれば、生産額は24.5億元に達する。推計によると、667 m^2 当たりの馬鈴薯栽培コストは350元で、農家の生産した馬鈴薯の年間利潤は667 m^2 当たり490元となるという。

2.2.5 環香山地域のセレン西瓜産業

栽培面積は4.9万 hm^2 で、総生産量は78.6万トンである。施設農業は黄河灌漑区から丘陵部へ進んでいる。

2.2.6 優良食糧作物産業

黄河引水灌漑区を中心とし、水稻、小麦、トウモロコシ生産が含まれる。栽培面積は32.3万 ha で、優良品質の作物生産量は220万トンに達する。

主に賀蘭山東麓に分布する葡萄産業帯では、葡萄栽培面積は1.5万 ha 、年間生産量は8万トンである。そのうち0.9万 ha が醸造用葡萄栽培で、年間4万トンを生産している。

靈武市—中寧—紅寺堡—同心県—海原県の産業帯が形成されている紅棗の生産は、栽培面積3万 hm^2 、年間生産量4.5万トンに達する。

優良品質の牧草産業は優良干草を年間450万トン生産している。

3 存在する主要問題

3.1 食糧作物の経済効果が低く、農民の増収に影響している

中国では近年来、食糧の最低保証価格や直接補助等、食糧生産支援に関する農民優遇政策に力を入れている。2008年、寧夏は農業用材料総合補助金の標準を二回引上げており、山区の灌漑耕地ではムー当たり50.1元、旱地（雨水に頼るしかない耕地）ではムー当たり13.4元の補助金が得られる。黄河

灌漑区及び黄河引水灌漑区における食糧生産農民への直接補助政策の耕地補助はムー当たり15元である。各種の農民優遇政策の実施によって農民の収入は増えた。しかし、穀物の単位生産量及び総生産量はすでに高レベルに達しており、さらなる増量は難しい上、化学肥料、種子、農薬等の農業資材価格が上がりつつけているため、農民の食糧生産コストが高くなり、単位面積の効果利益が下がる結果となった。調査結果によると、小麦、水稻、トウモロコシを生産する場合、生産コストを除いた実際の収入はそれぞれ667 m^2 当たり260元、531元、640元となり、クコ、スイカ、ヒマワリといった経済作物を生産する場合の実収入667 m^2 当たり2850元、910元、400元と比べた場合、食糧生産の収入が低いことが分かる。食糧生産だけでは家計を支えることが難しいという原因から、農民の食糧生産に対する意欲をそぎ、粗放な耕作や不耕地が増えるという現象が現れている。

3.2 農産品市場流通システムが未発達であり、販売方法が立ち遅れている

産地市場や卸売市場と末端消費市場からなる農産品市場システムが完備されていないことにより、農産品が流通せず産地に残ってしまうという事態が起きている。特に2007～2008年に農村部で施設農業と統一栽培が促進されたが、流通販売手段が立ち遅れたことにより、ハウス栽培の効果が十分に果たせず、農民の積極性をある程度減少させた。

3.3 農産品の加工能力が低く、付加価値も低い

現在、寧夏の農副産品加工分野の発達は遅れている。一部の農産品加工優良企業は、農家との連携不足で利益還元の手段が発達しておらず、農産品の加工転化率が低い。例えば、中寧県のあるクコ産業中堅優良企業の加工転化率は8.8%しかない。農産品の加工レベルが低いため、持続的な付加価値化の実現が困難であり、農民の増収も難しい。

3.4 農民扶助が不足しており、高める必要がある

近年来、自治区党委員会及び政府は、様々な農民優遇政策を実施し、農業の発展を指導しようとしている。時間と情勢の変化につれて、一連の政策について、さらに完備・強化させる必要が出てきた。例えば、清真牛・羊肉産業は寧夏の優勢特色産業であるが、牛や羊の肥育は経済効果が高いが、母牛や母羊の飼育は赤字が出る。政策の支持がないため、現在、母牛・羊の飼育総頭数は減少しており、清真牛・羊肉産業の持続可能な発展に大きく影響している。養豚の経済効果は良いが、漢族が集中している地域の主要産業とした方が良好だろう。また、農民の貸付金難が依然として顕著である。中寧県を例にとれば、2007年、全県で26,775戸の農家が農村信用社の貸付金28,765万円を必要としたが、実際に貸し付けが行われたのは必要な金額の25.7%に当たる7,389万円で、33.3%の農家しか貸付を受けることができなかった。

4 提案

農業の根本的活路は農業の経済効果を上昇させることで

ある。寧夏においては、惠民利民政策の完備と強化、産業化レベルの上昇と優勢特色産業の着実推進によってこそ農業経済効果の上昇が実現できる。調査研究の結果から、寧夏の農業経済効果の上昇を妨げている問題について以下のように提案する。

4.1 食糧生産の補助レベルを更に高める

食糧生産補助政策を実施する目的は、収入補助をすることで農民の増収を図り、食糧生産に対する積極性を促進することである。既述のように、2008年、自治区は農業用資材への総合直接補助基準を二回高めた。しかし、最近の農業用資材価格の高騰により、食糧生産補助の効果が相殺され、農民の実際の収入は減少した。中央政府は、食糧の買上げ価格を上げた上で、食糧生産補助の基準を食糧生産直接補助と農業用資材の総合補助をムー当たり100～150元までに高める必要があることを提案した。そうすれば、農民の食糧生産面積の拡大と増収、及び食糧生産の積極性の促進に有利であり、土地の利用方法にも適している。

4.2 母牛（母羊）養殖への政策的補助を強化する

母牛養殖の収入が肥育より低いため、母牛の飼育数が減り、食肉牛飼育産業の発展に影響している。母牛飼育を奨励するために、補助金（母牛と良い品種の子牛に頭当たり300～500元）を出す必要がある。また、一定規模の母牛繁殖農家に対しては、母牛繁殖補助金のほか、標準化した飼育暖棚（冬の防寒施設を備えた牛舎）、サイレージをつくる発酵槽、草粉砕機、牧草収穫機などの基礎的設備導入への補助政策を実施すべきである。

養羊は寧夏の伝統的な産業であるが、封山禁牧が行われて以降、舎飼いに変わってしまったので、飼料のコストが大幅に増えた。舎飼養羊の経済効率が低いという問題を解決するために、自治区は幾つかの牧草生産と養羊及び品種改良の補助政策を制定した。最近では、国内外から多品種の肉用羊を導入して交雑改良し、肉の生産量を高めている。しかし、食肉用の羊雑種改良が完成されておらず、母羊の飼育は利益が少なく、赤字になる。羊産業の発展のために、政府が母羊の飼育に1頭当たり30～50元の政策補助をすれば、農民の雑種改良羊に対する認識を変えることができ、母羊飼育の経済効果を高めることができる。

4.3 農産品加工企業の規模拡大を十分に重視する

農産品の加工工業を発展させることは農業及び農村経済構造調整の戦略重点であり、継続的な農業効果の上昇や農民の増収だけでなく、農業の全体的なレベルアップと競争力強化に有利で、中国における伝統農業から現代農業への転換を加速させることにも繋がる。寧夏の農産品加工工業レベルは低く、現代化と新農村建設の発展要求に適応していない。そのため、①非均衡発展戦略を実施する。農産品加工の種類は多く、始めるのが簡単のため、競争が激しい。そのため、発展政策上では地域内の資源優勢と産業特長によって特色産業を形成し、優先的に発展させるべきである。②相対的集中・合

理的分布の原則に基づいて、地域化、専門化、集約化、商品化の農産品生産基地建設を基礎とし、企業が優勢産業と優勢地域に集中するよう導き、優勢農産品の地域分布形成を促進し、農業産業集中化レベルと農業競争力を徐々に高める。③中央政府がすでに提出した全ての扶助政策を実施するほか、地方政府は地域の実際の状況によって、農産品加工工業発展の扶助政策を制定し、農産品加工工業に従事する個人及び企業を励まし、資金、用地、用水、電力などの面において優先政策を行う必要がある。

4.4 農産品の流通システムを整備する

①農産品流通の基礎施設の建設を進め、包装、加工、貯蔵、運送等の施設機能を整備する。②多数の農産品新型流通企業を育成し、流通システムを完全化することは、寧夏における施設農業の進展の基礎であり、相対的な生産過剰問題と末端消費市場での低品質・高価格問題を解決する最適な方法でもある。③農産品情報ネットワークを強化する。企業と卸売市場は、それぞれ専用の情報ネットワークをつくるべきである。また、自治区内の各卸売市場間も内部の情報ネットワークを整備し、定期的な価格報告制度と重要情報に関するフィードバック制度を実施し、市場情報、農業科学技術情報、管理情報、生産指導、販売案内等を正しく把握するべきである。④「グリーン通路（有機野菜等に対する特別な流通制度）」を開設する。流通サービスに関する優遇政策を制定し、流通従業者に「グリーンカード」を配布して、流通経営者の合法権利と利益を保護する。また、農産品流通市場の管理費用、衛生費、交易費、及び運送中の道路使用料等の負担を適正に減らすべきである。

4.5 多元化農村融資メカニズムを健全化する

農民の増収に必要な資金提供の基礎を築くために、新農村建設に対応する村鎮銀行、貸付金信用社、農村資金相互合作社を建設し、農民が資金が必要ときに貸付金が得られるようにし、農民の生産発展や小規模プロジェクトが実施できるようにする。また、農業生産や養殖業、特色産業の生産周期や生産季節に合わせて貸付金を出すことにより、農業生産における貸付金の役割を十分に発揮させることも必要である。

4.6 漢民族の地域において、養豚を重点発展産業とする

豚肉は中国人の最も主要な肉食品である。最近、発達した省（区）の農村での第二、三産業の進展により、養豚業が辺境地の省（区）に移ってきた。寧夏は回族自治区でありながら、漢族の人口が多数を占めているため、養豚を漢族地域の重点発展産業とするべきである。養豚の資金投資は小さく、技術要求も高くないため、一人の労働力で1回20頭を肥育することができ、2007年の1頭当たり423元の収入で計算すれば、年に2回の養豚で、労働力一人当たり約1.7万円の利益を得ることができる。華北地方及び中原地方において、豚肉の市場需要量が大きい。



研究所訪問者

(2011年4月～9月)

訪問日	訪問者
5月9日(月)	青木 正三 様 (関西日中交流懇談会 運営委員) 青木 登代子 様 他2名
6月5日(日)	佐藤 修 様 (国際交流基金北京日本文化センター 日本語教育専門家)
9月7日(水)	島根大学中国夏季研修 参加学生 11名 同 引率者 2名

新着図書紹介

このコーナーでは、研究所に新しく登録された図書の一部を紹介します。



『寧夏統計年鑑 2010 (寧夏統計年鑑 2010)』

寧夏回族自治区統計局、国家統計局寧夏調査総隊 編
中国統計出版社・2010年9月

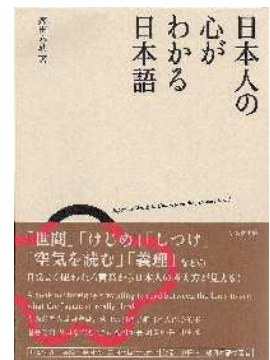
寧夏の経済と社会発展に関する、総合的かつ系統的、客観的な年刊資料。寧夏の地域事情の研究、社会情報の収集、政策の制定等に欠かせない重要な書である。寧夏の歴史的重要な年及び2009年の経済・社会各方面に関する統計データ、寧夏各市・県(区)の主要統計データ、全国及び各省(市、自治区)の主要データが掲載されている。

『日本人の心がわかる日本語』

森田六朗 著

アスク出版・2011年5月

日本文化に興味のある学習者はもちろん、日本語の表現の幅を広げたい中級学習者、ことばの説明に苦勞している日本語教師の方にもおすすめです。本書は、「内と外」、「世間」、「しつけ」、「けじめ」、「義理」、「遠慮」、「おかげさま」、「もったいない」などの、外国語に直訳しづらい言葉をとりあげ、その意味や使い方はもちろん、その言葉の背景に日本人のどんな感情や文化的背景が隠されているのかを“日本語学習者向けに”解説した本です。(アスク出版HPより)



ご意見・お問い合わせ

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

〒750021 中国・寧夏・銀川市西夏区賀蘭山西路489号 寧夏大学A区 3信箱

TEL: +86-951-2061818 E-mail: neika_kenkyusho@yahoo.co.jp

HP アドレス <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/>